

発達障害とは

自閉スペクトラム症
ASD

知的な遅れを伴うこともあります

注意欠如・多動症 ADHD

自閉症

広汎性発達障害

アスペルガー症候群

注意欠陥多動性障害 AD/HD

- 不注意(集中できない)
- 多動・多弁(じっとしてられない)
- 衝動的に行動する(考えるよりも先に動く)

学習障害 LD

- 「読む」、「書く」、「計算する」等の能力が、全体的な知的発達に比べて極端に苦手

限局性学習症 SLD

※このほか、トゥレット症候群や吃音(症)なども発達障害に含まれます。

- 言語発達の遅れがある(自閉症)／ない(アスペルガー症候群)
- コミュニケーションの障害
- 対人関係・社会性の障害
- パターン化した行動、こだわり
- 不器用(言語発達に比べて)

出典：政府広報オンライン
<https://www.gov-online.go.jp/featured/201104/index.html>

ひろこは® システムの特徴

ひろこは®システムは、幼児期の発達障害に特徴的な行動を評価し、発達障害のリスクのある子どもをスクリーニングするものです。スクリーニングをWebアンケート形式で行うことにより、集計作業の手間を省き、子どもの発達の度合いを可視化する個人結果票を自動的に作成する支援ツールです。3歳版と5歳版を用意しています。

早期発達評価のメリット

切れ目のないサポート

得意なこと
苦手なことを
みんなが知れる

身近な場所で

生きづらさを
軽減する

家族を支える

ひろこはのサービス

導入時のコンサルティング

自治体スタッフ向けの研修会や事業担当者の相談に応じます。発達障害の理解、スクリーニングの説明、結果の活用方法などについて研修を行います。保護者からよくある質問に対して、対応マニュアルを提供します。保育園や事業所向けの研修会の開催も可能です。

導入後のコンサルティング

リスク児への対応や保護者への説明についての相談(心理師や医師によるWebカンファレンス)。結果について分析を行うことが可能です(オプション)。事業担当者の相談に応じます。

専門的な療育の提供

Webでできる療育サービスについて、ご相談に応じます(地域や専門家の状況によります)。

料金についてはお問い合わせください

ひろこはについて

未来を担う子どもたち一人一人が自分らしく健やかに成長し、輝く可能性を見出される社会を願って、2024年2月に設立いたしました。発達に偏りをもつお子さんの個性を尊重し、適切な関りによって、発達における課題を解決するために保護者や支援者をサポートします。



代表取締役
斉藤 まなぶ
(弘前大学大学院 保健学研究科 教授)

株式会社 弘前子ども発達支援センター

E-Mail info@hirokooha.com
URL <https://hirokooha.com>



株式会社 弘前子ども発達支援センター

ひろこは...*



発達障害は
一人一人違う特性があり、
それぞれに個別の支援が
必要です!

ひろこは® システム

早期発達評価(アセスメント)支援 Webスクリーニングシステム

ひろこは®のスクリーニングは弘前大学の研究成果を活用したものです

ひろこは® Webスクリーニングシステムの特徴

3歳児 Webスクリーニングシステム

3歳児を対象とした発達早期評価（アセスメント）を行うことができる Webスクリーニングシステムです。3歳児健診時に導入することで、半数以上見逃されていた発達障害（特に高機能の自閉スペクトラム症や注意欠如多動症、軽度知的障害など）のリスクに気付くことができます。

アンケート調査対象 3歳児の保護者

以下の尺度で、発達評価（アセスメント）を個人結果票として作成します。

使用する尺度名	尺度でとらえているもの	下位項目
社会性発達スクリーニング14項目 (SSD14®) [実用新案登録 第3240645号] ※本尺度は厚生労働科学研究により開発されました。	社会性の発達 (周囲とのかかわり)	<ul style="list-style-type: none"> ・友達関係 ・多動／不注意 ・周囲への気づき ・状況の理解 ・相互のコミュニケーション ・関心や緊張 ・こだわり行動

※斉藤まなぶ他「乳幼児健診での言語に関わる障害の早期発見尺度の検証、依存症の調査研究」R1～2年度厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）分担研究報告書 https://mhlw-grants.niph.go.jp/system/files/report_pdf/202018006A-buntan5.pdf

3歳児のひろこは®システムでは、約11～12%のリスク児を抽出します。行動観察や発達相談の必要性の目安になります。

Webアンケートには、顕在化しにくい発達障害のスクリーニング (CLASP-3y) や睡眠障害の評価 (JSQP)、国のアンケートも追加し、自動集計を行うことができます。



5歳児 Webスクリーニングシステム

5歳児を対象とした発達早期評価（アセスメント）を行うことができる Webスクリーニングシステムです。スクリーニングの結果から、子どもの特性の多様性が示され、子どもと接する多様な現場での早期発達支援にご活用いただけます。

アンケート調査対象 5歳児の保護者及び、教育・保育施設教職員 (教師・保育士) ※保育士・教師はSDQのみ

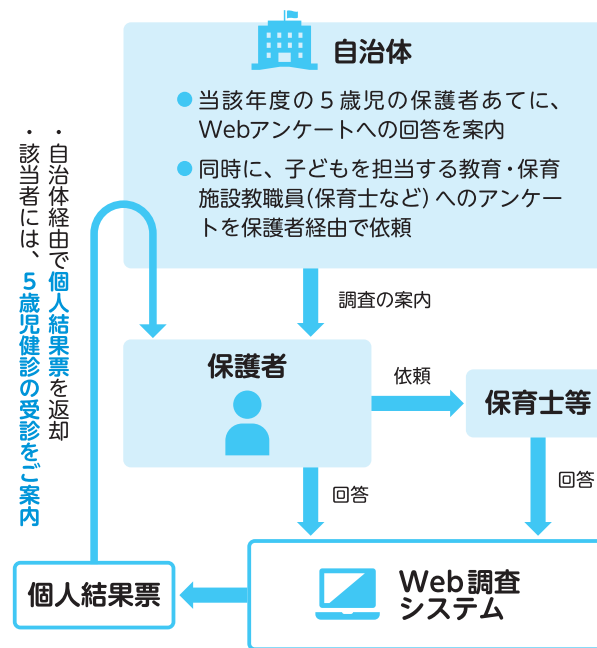
以下の尺度で、発達評価（アセスメント）を個人結果票として作成します。

使用する尺度名	尺度でとらえているもの	下位項目
SDQ 子どもの強さと困難さアンケート ※この尺度のみ保護者・保育士両方で評価していただきます	特別な支援の必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちの安定 ・困らせる行動 ・落ち着き度 ・他の人とのやりとり ・思いやり行動 ・生活の困り感
ASSQ 高機能自閉症尺度	自閉スペクトラム症の傾向	<ul style="list-style-type: none"> ・他の人とのやりとり ・こだわり
ADHD-RS ADHD 評価尺度	注意欠如多動症の傾向	<ul style="list-style-type: none"> ・集中力 ・落ち着き度
DCDQ 発達性協調運動症尺度	発達性協調運動症の傾向	<ul style="list-style-type: none"> ・体のバランス ・手先の器用さ ・てきぱき度
PSI-C 育児ストレス尺度 (子どもの側面)	保護者の育児ストレスの状況	<ul style="list-style-type: none"> ・子育ての大変さ

5歳児のひろこは®システムは、上記の尺度の点数を組み合わせることで発達障害のリスクのあるお子さんを抽出します (特許第7253782号)。弘前市では約15～20%のお子さんが精密健診の対象となり、その約90%が要支援または要観察となることが確認されています。Webスクリーニングだけでも支援のニーズを把握できます。

システム利用のプロセス

※以下は5歳版
3歳版は保育士等の
ルートはなし



弘前大学のアルゴリズムを用いて個人結果票を作成

個人結果票

左が3歳児スクリーニングの結果票、右が5歳児スクリーニングの結果票。

